

市長と語ろう あんトーク



市長や職員が身近な課題・意見等を聞くために、地区公民館等で実施しました。
主な内容を紹介します。

「市長と語ろう あんトーク」の振り返り

◎防災

◆意見 大雨等災害時における避難情報の伝達方法について、市の考えを教えてください。

◆回答 防災ラジオ、携帯電話の緊急速報メール、ホームページを活用して情報を伝達するほか、避難指示等の情報は対象地域への広報車や消防団による広報活動で、もれなく伝え、逃げ遅れないようにします。
また、必要時に自動的に起動し、情報を伝達できる防災ラジオの普及に引き続き努めます。



▲防災ラジオ(1台2000円で販売中)

◎アンフォーレ

◆意見 アンフォーレの駐車場は狭くて、出入りが大変と聞く。アンフォーレに行くいい方法はないか。

◆回答 立体駐車場に関しては、狭く使いにくいという意見がありますが、建築基準法等の要件を確保し、民間事業者が建設運営しているものです。構造的な変更はできませんが、通路にセンターラインを引く等の改善を行っています。なお、市役所立体駐車場、安城駅西駐車場は比較的金の無料サービスも同様としています。

また、アンフォーレのすぐそばには、あんくるバスと名鉄バスのバス停がありますので、公共交通機関を利用しての来館も便利です。

開催日、会場等

《一般》

- 7月29日／二本木公民館
- 8月22日／桜井福祉センター
- 10月19日／アンフォーレ
- 11月23日／東部公民館

《団体別》

- ・愛知県農村生活アドバイザー協会
西三河支部碧海分会安城地区
8月3日／市役所
- ・海外派遣(交換学生・市民派遣)経験者
8月24日／市役所
- ・安城市小中学校PTA連絡協議会
10月4日／市民会館
- ・安城市聴覚障害者福祉協会
10月28日／社会福祉会館
- ・安城市保育所父母の会連絡協議会
11月24日／中部調理場



▲アンフォーレの自転車置き場

◆意見 アンフォーレの自転車置き場が雨ざらしなので、屋根を付けてほしい。

◆回答 無料の自転車置き場には、屋根をつけないという方針でしたが、利用状況からアンフォーレについては、特例的に一部屋根を設置することを検討しています。

◎市民生活・環境

◆意見 中学3年生の時、オーストラリアへの交換学生事業に参加し、多くのことを学ぶことができた。高校生となつて、ドイツからの留学生と話す機会があつたが、自分の語学力はまだまだだと思つた。大学入学後に留学して、自分の語学力を磨き、生かしていきたいと思う。

◆回答 若い人たちの、英語学習への熱意、留学希望を聞き、大変頼もしいと思ひました。

今年7月、所得の増えている東南アジアからの観光客誘致につなげるため、現地の観光社、経済団体に説明、宣伝をする機会がありました。東南アジアの人々は、高級食材や甘い食べ物、日本のフルーツが大好きでイチジク狩りへの要望があることがわかりました。

国際交流は非常に重要で、経済も密接になっていますので、市民の皆さんと共に、市民交流、経済交流に挑戦していく必要があると思ひつています。

◆意見 公園を歩いていて犬のフンを踏んだと聞く。広報で犬のフンの始末について啓発できないか。

◆回答 フンを入れる袋を持たずに犬の散歩をするという人もいます。フンの放置防止看板の表示を「フ



▲紙芝居で食育活動

ンを持ち帰りましょう」といったやさしい表現から、「周りのみんなが見てますよ」というやや強めのものに変えられないか検討したいと思ひます。また、9月の動物愛護週間に合わせて広報紙での周知・啓発を行います。

◎観光・食育

◆意見 三河安城駅の乗降客を増やすために、三河安城駅と七夕まつり会場を結ぶシャトルバスを運行してはどうか。

◆回答 七夕まつりの会場付近は大変な混雑や渋滞が発生しています。路線バスもルートを変更して迂回していますので、在来線を利用して安城駅へ向かう方法が一番現実的だと思います。

◆意見 食育の紙芝居を上演しているが、幼児には難しいようだ。高価なものとの承知しているが、小さな子ども達が飽きない、安城らしい紙芝居を制作してもらえないか。

◆回答 低年齢児向けの紙芝居がないことに関しては、次年度での制作に向けて、紙芝居の内容について皆さんと検討する等準備を行います。

◎まちづくり

◆意見 新安城駅の西側の踏切を、子どもを自転車に乗せて毎朝渡るが、車がすぐ近くを通り過ぎるぐらい狭く、危険な状態。市はどう対策するのか。また、市だけではできないと思ひうので、国、県、名鉄に改善するよう要望が出せないものか。

◆回答 新安城駅のすぐ西側の踏切の渋滞については、市も、随分前から問題視していました。まずは車を分散させようと、平成22年に駅の東に線路の下をくぐる道路をつくりました。同時にさらに東に線路の上を跨ぐ道路もつくり、車を減らせれば安全になると考えていました。しかし、再び車が集まってきてしまいました。南北の分断は解消できましたが、踏切についてはまだまだ課題だと認識しています。

平成23年には踏切内道路を広げようと検討しましたが、建物が迫っていて前後の道路の幅員が広げられま



▲課題の多い名鉄新安城駅西側の踏切

せんでしたので、40cmだけ幅員を広げました。

平成28年度に、国が問題のある踏切として全国で530カ所程を指定しましたが、県内では70カ所程、内5カ所が安城市内であり、ここはその1つです。

問題を解消する1番の方法は鉄道と道路の立体交差です。鉄道を上げる際には、まちをもう一度整備し直す必要もあると考えていますが、費用と時間の課題が大きく、すぐにできるものではありません。

地域でまちづくり協議会を組織して当面の解決案を練ってもらっており、引き続き考えていきます。



▲田園地域を走るあんくるバス

◆意見 あんくるバスがある日突然来なくなった。今後どうなるのか聞かせてもらいたい。路線の見直しがあると聞いていたがどうか。

◆回答 平成26年に大きな改編を行い、概ね市内全域に行き渡ったと思っています。路線の頻繁な変更は、利用者の混乱を招きますので、しばらくは現状のルートで様子を見たいと思います。

しかし、路線見直しの要望は各地で聞きます。必要に応じて改編を考えなくてはならないと思いますが、その時期はバス会社を変更する時が適当と考えています。次の機会は5年後となりますので、その間は要望を聞きながら検討をしていきます。

◎福祉

◆意見 市役所で手話通訳者が不在で、満足なコミュニケーションができず、再来することもあるので、手話通訳者を増員してほしい。

◆回答 障害福祉課の窓口には、毎日開庁時間中に、手話通訳者を1人配置しています。これは、他市と比べても充実していますが、不在時にはご不便をお掛けしています。事前にメールやファクス等で対応の可否を確認していただければ確実です。

また、障害福祉課の職員も自発的に手話の勉強会を行っており、若干は対応できます。

◆意見 病児保育の施設が市内に1カ所あるそうだが、今後、増やす予定はあるか。また、前日までに予約が必要であり、利用しにくいイメージがある。改善する予定はあるか。

◆回答 病児保育については、病児・病後児保育室「ぐんぐん」(法連町)で実施しています。毎年300名程の利用があります。1日あたり4人まで受け入れ可能ですが、4人受け入れた日は年間で数日ですので、施設を増やすことは考えていません。

病児保育では、病気の子どもを預かり、時には感染症の子どもを預かる場合もあります。他の子どもへの感染を防ぎ、安心して預けていただくためにも事前予約をお願いしてい

ます。

◎教育

◆意見 最近、気候の変化からか気温が上がっているようだ。昔とは環境がかなり変わってきていると思う。小中学校の教室にエアコンを整備する検討はしているのか。

◆回答 県内でもすでに整備した事例があり、課題としていますが、市内の小・中学校全校にエアコンを設置すると、20億円程の投資が必要になります。また、安城市では5年ほど前に扇風機を設置したばかりであること、冷房の稼働期間は夏休みを除くと2カ月半から3カ月程度と短いため、暖房として使うとしても、学校には既にストーブを設置し活用していること等、本市の事情もあり



▲エアコン整備のイメージ

ます。

さらに、導入を予定している刈谷市に聞いたところ、刈谷市では、都市ガスが利用できる環境が整っているとのことでしたが、安城市では都市ガスが利用できない学校があり、夏場や冬の電力のピークをいかに下げるかが問われているこの時代に、電力を多く使用する方式のエアコンはふさわしくないと考えています。ガスでエアコンを運転する場合、プロパンガスでどの程度運転できるのか、不確実な部分もあります。

これらの課題を検討しながら、今後整備していく方向で準備を進めているところです。順序や時期を見計らって一斉に整備したいと考えていますので、もうしばらく時間がかかると思います。

◆意見 中学生が重いリュックを背負って通学しているのを見かける。小さい体の子も大変苦労していると思う。全国的にも問題になっていると聞く。市はどのように考えているのか。

◆回答 小学生、中学生ともに通学時には、用具を持っていますが、小学生は以前からランドセルを使っています。中学生は、だんだんカバンの中身も重く、そして量も増えたため、次第にリュックを通学で使うようになってきました。

近年、教科書の大きさも大きくな

り、持ち物も増え、中身は非常に重くなっています。学校によっては、学校に保管し、毎日家へ持ち帰らなくてもいい教材と、毎日家に持ち帰り、ぜひ学習してほしい教材を区別する等、工夫はしています。

◆意見 各小中学校へ配置している臨床心理士を増員して各学校専属として、カウンセリングだけでなく、家庭教育や子育ての悩みを相談できるようにならないか。

◆回答 現在、県の事業で中学校には週に1日、小学校には3週間から4週間に1日、スクールカウンセラーが配置されています。少ない時間ですが、保護者からの相談を受けたり、子ども達のカウンセリングを行ったりしています。

一方、市では、教育センターに臨床心理士を常駐させています。ふれあい相談という名称で、悩みのある保護者を中心に教育センターで、相談活動を行っています。どちらも多数の希望があり、十分な対応とは言えません。

そこで、同じく教育センターの中に、臨床心理士の資格はありませんが、定年退職した校長を社会教育指導員として配置しており、長年教育が携わったノウハウを生かした相談ができるようにしています。

ここでは、子育ての相談、家庭教育等にかかわる相談等様々な相談が

されており、平成28年度に社会教育指導員が取り扱った相談件数は、電話での相談が91件、教育センターに出向いての相談は690件でした。子育て、家庭教育等の相談に利用してください。

◆意見 スマートフォン(以下「スマホ」)が子ども達に与える影響について聞きたい。子ども達をスマホやインターネットから遠ざけるだけでは意味がないと感じる。若い子ほどパソコンが使えないという状況が気になる。

◆回答 スマホは大変便利なツールですが、教育の立場からはマイナス面が浮かびます。

現在、多くの子ども達がスマホを持つ状況になり、スマホをめぐるトラブルやスマホが原因のいじめが現実存在しています。特に中学生のトラブルの原因の多くが、無料通信アプリです。返信が来ない、誹謗中傷を受けた等のトラブルやいじめ等が存在していますが、目に見えないところでのことですので、教員、保護者にとって対応が難しい状況です。学校では県警や携帯電話事業者から講師を招き、時には保護者も交え、スマホの怖さについて学習しています。家庭でもスマホの使い方について十分に約束をし、家庭教育と学校教育両輪で対応したいと思っています。

次に、情報教育については、本市では小・中学校全校にタブレット端末を導入しました。特に授業の中の情報機器活用について、研究も進めながら子ども達とともに取り組んでいます。いずれは、プログラミング教育を取り扱うようになり、情報教育がますます進むようになると考えています。

◎その他



▲アンフォーレ開業を祝うサルビーときーぼー

◆意見 「サルビー」の今後の活用について聞きたい。「きーぼー」と比べて活躍の場が少ないと感じる。

◆回答 数年前にキャラクターのコンテスト等に参加するにあたって、安城七夕まつりを全国にPRするという戦略で、「サルビー」ではなく、「きーぼー」一本で参加しました。

コンテストでの成果もあって、現在は「きーぼー」が安城市の代表的なキャラクターのようにも見えます。しかし、「きーぼー」は七夕まつりキャラクターで、安城市のキャラクターは今でも「サルビー」です。「サルビー」は、元気にしていますので、これからは「サルビー」にもたくさん活躍してもらい、「きーぼー」は今後も七夕まつりを中心に活躍してもらいたいと思います。

コンテスト等でみんなで「サルビー」を応援しようというキャンペーンがあれば、「サルビー」の存在感は強くなると思います。次の戦略として考えていきたいと思っています。

意見をお聞かせください

次の方法で、市政についての、皆さんの意見・提案を受け付けています。意見と回答の要旨は、市HPに掲載しています。

市長へのメール 市HP内「市長へのメール」ページのフォームから送信できます。トップページの「市長のページ」バナーからアクセスできます。

ご意見BOX 切手不要で意見を郵送できる用紙です。市役所案内や各地区公民館等で配布しています。